



ちば



アグリ情報

Agri Information CHIBA



県代表の拓大紅陵高校に県農畜産物でエール（7月29日 拓大紅陵高校にて）

詳細はP.14

私たち全農グループは、**生産者と消費者を**
安心で結ぶ懸け橋 になります。



CONTENTS

食と農を未来へつなぐ。

- 生産振興を通じた生産基盤の維持・拡大の取り組み

営農情報

- 園芸野菜 病害虫防除情報

園芸情報

- 販売経過および情勢

米穀情報

- 米穀情勢

肥料情報

- 園芸向け一発肥料のススメ！

資材情報

- 電気柵管理のポイントについて

トピックス

- 農業機械展示会 南総サマーフェア開催
- 全農お肉工房印西店周年祭を開催
- 旭市豚肉共進会にて房総ポーク生産者が最優秀賞を受賞
- 令和8年度米の農産物検査員技能研修会を開催
- ライフ（スーパーマーケット）6店舗でやまといもPRを実施
- 甲子園出場の拓殖大学紅陵高校に県産農畜産物でエール！

お知らせ

- JAグループ千葉農業機械大展示会 千葉アグリフェア2026
- 稼げる農業を実現！「ちばアグリトプランナー経営塾」を開講



食と農を未来へつなぐ。

JA全農ちばの取組状況
園芸振興

生産振興を通じた生産基盤の 維持・拡大の取り組み

農業者数の減少等により、本県産青果物の産出量は減少が続いています。首都圏に位置し、全国第4位の農業県（令和6年度）として、その位置付けと役割を維持するとともに、本県生産者の営農と生活を守るため、生産基盤の維持・拡大に向け、重点品目の生産拡大や取扱量の増加、生産・出荷・販売体制の整備に取り組んでいます。

1. 重点品目の生産拡大に向けた取り組み

県産青果物の生産量確保に向け、特に露地野菜重点3品目である「長ねぎ」「にんじん」「さつまいも」、施設野菜重点品目である「トマト」の生産拡大を推進しています。

「長 ね ぎ」：高温対策として秋冬ネギの年内出荷拡大に向けた取り組み

「に ん じ ん」：しみ症対策や高温対策による品質・収量向上、新規産地づくりの推進

「さつまいも」：生理障害・病害虫対策の取り組みや品質向上に向けた新品種の導入提案

「ト マ ト」：通気性に優れた資材や遮光資材等の普及による高温対策

2. 生産量の拡大に向けた取り組み

県内農産物の生産量拡大に向け、気候変動（酷暑・乾燥）を想定した品種・作型・出荷時期等の見直し等について、関係機関と連携しながら産地づくりをすすめます。

系統出荷の利用が少ない生産者への提案活動を強化するとともに、若手生産者や中・大規模経営体への新たな生産提案、園芸品目の導入・定着を支援し、生産拡大につなげます。

3. 生産・出荷・販売体制の整備による販売ロットの拡大

消費地ニーズや物流環境の変化に対応するため、生産・出荷・販売体制の整備をすすめます。

物流対策を踏まえた対応や効率的な出荷体制の検討をすすめるほか、出荷規格の見直しや簡素化・統一化に取り組み、産地の競争力向上をはかります。

これらの取り組みを通じて生産者の皆さまとともに力強い産地づくりをすすめ、千葉県農業のさらなる発展と生産基盤の維持・拡大を目指してまいります。

1. はじめに

気象庁によると8月も平年より高い気温が続く予報となっています。そのため、害虫の発生には特に注意をしましょう。また、一般的に高温時や作物が弱っている時は薬害のリスクが高まるため、薬剤防除は早朝か夕方の涼しい時間に行いましょう。

2. ねぎ

(1) シロイチモジヨトウ *本年の多発生に注意！

7月15日に千葉県から発表された病害虫発生予報では、シロイチモジヨトウの発生が「多」となっています。卵を卵塊で産みつけ、ふ化した幼虫は集団で群生して葉の内側から食害します。幼虫の体色は淡緑色で側面に白線があり、中齢以降は黒褐色になります。下記の薬剤は特に効果が高いですが、浸透移行性がないため薬剤がしっかりかかるような散布を心がけましょう。また、必ず同じ系統の薬剤を連続で散布しないようにしてください。



【シロイチモジヨトウ 幼虫】



【シロイチモジヨトウ成虫】

○ねぎ シロイチモジヨトウ 防除薬剤

IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
5	ディアナSC	2500～5000倍	収穫前日	2回以内
6	アニキ乳剤	1000～2000倍	収穫3日前	3回以内
30	グレース乳剤	2000～3000倍	収穫7日前	2回以内
	プロフレアSC	2000～4000倍	収穫前日	3回以内
UN	プレオフロアブル	1000倍	収穫3日前	4回以内

(2) 白絹病



【白絹病 病状】

白絹病は高温（30℃程度）と多湿により発生しやすい病害です。地際～地下部の軟白部に白いカビや菌核（白い粒）が発生します。圃場の排水対策を行い、土壤の過湿状態に注意しましょう。発生後の対策は困難ですので、土寄せを行う時にあわせて予防的防除を実施しましょう。

○ねぎ 白絹病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
7	モンカット粒剤	4～6 kg/10a	土寄せ時・ 収穫30日前	4回以内	予防
	モンカットフロアブル40	2000倍			
	アフェットフロアブル	2000倍	収穫前日	2回以内	予防
29	フロンサイド粉剤	15kg/10a	土寄せ時・収穫21日前	2回以内	予防
14	リゾレックス粉剤	20～30kg/10a	土寄せ時・収穫14日前	3回以内	予防
11+4	ユニフォーム粒剤	9 kg/10a	土寄せ時・収穫45日前	1回	予防・治療
11	メジャーフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療

(3) 軟腐病



【軟腐病 病状】

軟腐病も白絹病と同様に高温（30～35℃）で発生しやすい病害です。地上部の生育不良や萎れから始まり、株元や軟白部が軟化腐敗し、腐敗臭が発生することが特徴です。細菌病のため効果的な薬剤が限られます。土壤伝染する病害ですので、株元にもかかるよう散布しましょう。

○ねぎ 軟腐病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数※	備考
31	スターナ水和剤	2000倍	収穫7日前	3回以内※	予防・治療
31+24	カセット水和剤（スターナ+カスミン）	1000倍	収穫14日前	2回以内※	予防・治療
U18	バリダシン液剤5	500倍	収穫前日	2回以内	予防・治療
P2	オリゼメート粒剤	6 kg/10a	土寄せ時・収穫30日前	2回以内	予防

※スターナ・カセット は合わせて3回以内（共通成分：オキシリニク酸）

園芸情報

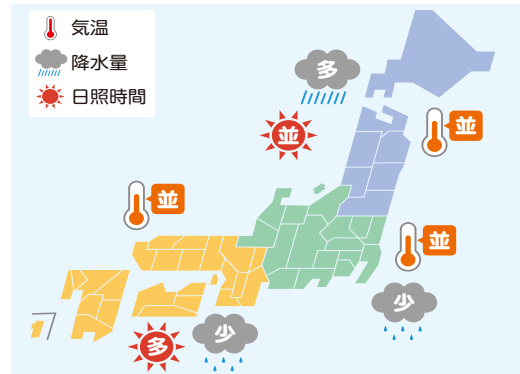
販売経過および情勢

青果物 7月の販売経過

7月の天候は、全国的に暖かい空気に覆われやすく、平年並みの気温となりました。

降水量は、低気圧や梅雨前線の影響により北日本はかなり多くなりました。一方、東・西日本では高気圧に覆われやすく晴れの日が多かったため、少なくなりました。

日照時間は、西日本でかなり多く、北日本では、平年並みとなりました。



【野菜】 東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は98,161 tとなり、北海道・東北産の主要品目が天候不順の影響を受けて生育や出荷が不安定だったことから、前年を下回りました。品目別では、キャベツは主力産地の群馬県で6月の曇天により生育が遅れたため、前年を下回りました。きゅうりは主力の東北産が天候不順による生育停滞の影響を受け、前年を下回りました。馬鈴薯は上旬に静岡県産の出荷が終了したことに加え、関東産の入荷も少なかったため、品薄感が強まりました。野菜の価格は、入荷量が総体的に少なかったことから、前年を上回りました。

【果実】 同市場の国産果実の入荷量は29,870 tと前年をやや上回りました。メロン類は入荷量は概ね前年並みであったものの、上旬までの潤沢出荷による販売苦戦もあり、価格は前年を下回りました。すいか類は千葉県の出荷が終盤となる中、後続産地が天候不順による出荷の遅れもあり入荷量は前年を下回りました。国産果実の価格は、入荷量が前年並みであったことから概ね前年並みとなりました。

※東京都中央卸売市場統計データによる

東京都中央卸売市場の野菜・果実入荷量および単価（7月）

	数 量		単 価	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)
野 菜	98,161	93.7	322	110.5
果 実	29,870	101.6	596	98.8

JA全農ちばの販売状況（7月）

	数 量		単 価		取 扱 額	
	(t)	前年比 (%)	(円/kg)	前年比 (%)	(百万円)	前年比 (%)
野 菜 計	9,756	101	280	109	2,733	110
果 実 計	3,961	106	315	93	1,246	98
にんじん	1,101	169	133	80	146	135
キャベツ	735	73	63	113	46	83
ほうれん草	21	116	596	103	13	119
ね ぎ	590	94	333	102	196	97
パセリ	16	88	889	104	15	92
きゅうり	522	97	355	129	185	125
トマト	586	115	335	125	196	144
ししとう	67	91	1,327	107	88	97
とうもろこし	1,334	67	281	111	375	74
甘 藷	2,066	127	259	89	535	112
馬 鈴 薯	1,187	103	228	239	270	247
枝 豆	120	98	779	102	93	100
メ ロ ン	1,066	101	362	82	386	82
す い か	2,442	96	221	80	539	77

8月主要品目

作付動向・作柄状況

見通し基準（前年対比）	
多・高	+10%以上
やや多・やや高	+5%～10%
並	±5%以内
やや少・やや安	-5%～10%
少・安	-10%以上

入荷量・価格は
東京都中央卸売
市場の集計です

品 目	入荷量（t）		単価（円/kg）		主産地	作柄および概況
	当年見通し	前年実績	当年見通し	前年実績		
キャベツ	並	15,312	並	82	群馬 岩手	主力の群馬・岩手の生育は概ね順調。出荷量は潤沢な出荷となった前年並みを見込む。販売は潤沢な出回りから苦戦した前年並みの価格が予想される。
だいこん	やや多	6,232	やや安	121	北海道 青森	今年の北海道・青森は適度な降雨もあり生育順調で、干ばつで少なかった前年をやや上回る出荷量となる見込み。価格は豊作傾向のため前年をやや下回る見込み。
にんじん	やや多	5,311	やや安	161	北海道 青森	北海道は生育順調のため、前年を上回る出荷量を見込む。販売では、猛暑の影響から煮炊き商材は量販店中心に荷動き鈍いため、前年を下回る価格を見込む。
トマト	やや多	6,302	やや安	504	北海道 福島	生育の遅れから7月の出荷は少なく、8月に後ろ倒しとなり上中旬は潤沢となる見込み。下旬以降は高温の影響から減少が予想されるため価格の浮上が見込まれる。
きゅうり	やや多	6,882	並	385	福島 岩手 秋田	上旬は生育が遅れていた東北の露地作が出荷ピークを迎え、増量となる見込み。生育は概ね良好なため、入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みを見込む。
ねぎ	やや多	2,992	やや安	424	茨城 秋田 青森 北海道	好天の日が続き生育は良好で前年を上回る出荷を見込む。単価は学校給食が終了し、業務需要の荷動き鈍いことや猛暑により量販店の回転が悪く軟調な販売を見込む。
ほうれん草	並	545	並	942	群馬 栃木	猛暑の影響から、高冷地の出荷量も徐々に減少する見込み。出荷量の減少に伴い価格の浮上が見込まれ、前年並みの価格で推移する見込み。
パセリ	並	28	やや安	2,357	長野 千葉	猛暑の影響から、出荷量は減少傾向で前年並を見込む。価格は、出荷量減少に伴い業務需要中心に引き合い強まるが、前年はやや下回る見込み。
ししとう	やや少	95	やや高	1,316	千葉 高知	高温障害による正品率の低下が懸念され、出荷量は前年を下回る見込み。需要は夏商材のひきあいもあり、前年をやや上回る価格を見込む。
さつまいも	並	1,605	やや安	310	茨城 千葉 城戸	連休前までは前年産の出荷も終盤を迎え出荷総量は落ち着くが、連休後は生育順調な新芋が増加する見込み。販売環境は気温高による消費の停滞から厳しい状況が見込まれる。
なし	やや多	6,008	やや安	577	千葉 茨城 福岡	雨量が多く平均気温も高く推移し大玉傾向の出荷を見込む。幸水は上旬頃に出荷最盛期となる。価格は果実全般で入荷が多いことが見込まれ前年をやや下回る見込み。

花 販売情勢

◆7月の販売経過【切花】

本年は、昨年と比べると気温の上昇は緩やかであったものの、中旬頃からは昨年と同様に酷暑となりました。また、本年は各地で6月に曇天が続き、天候不順となったことから生育不良となる品目も見られ、不安定な入荷状況となりました。

販売については、月前半は7月盆に向けて動きが見られ、中でもトルコキキョウは品薄の影響から安定した販売となりました。7月盆が明けると、需要は落ち着き、気温の上昇から出荷増量となった品目については、厳しい販売環境となりましたが、生育期の天候不順から入荷量が安定しなかったトルコキキョウについては、安定した価格での販売となりました。月末にかけては、8月盆に向けて仏花商材を中心に徐々に動きが見られましたが、物価高の影響から嗜好品である花の一般消費が鈍い状況が続いているため、厳しい販売環境となりました。

◆今後の見通し（9月）【切花】

近年、9月でも夏場と変わらない気温で推移しており、昨年と同様に厳しい暑さとなれば、多くの品目で生育不良となることが懸念されます。また、台風の発生が多い月であり、月を通して天候状況に入荷状況が大きく左右されることが見込まれます。

販売については、中旬は彼岸に向けて仏花商材中心に需要が高まり、敬老の日に向けては洋花も動きが出る見込みです。また、本年は祝日が重なり大型連休となるため、イベント、ブライダル等でも動きが見られる見込みです。



◆今後の見通し（9月）【品目別】

品 目	作 柄 お よ び 概 況
千 日 紅	千葉を中心とした出荷。 今後の天候次第ではあるものの、前年並みの入荷となる見込み。 彼岸需要を中心に動きが出る見込み。
輪 菊	愛知を中心に長野・秋田などからの出荷。 夏場の高温の影響により開花遅延となり、不安定な入荷となることが懸念される。 彼岸需要を中心に動きが出る見込み。
カーネーション	北海道・長野などからの出荷。 夏場の高温の影響や生産量の減少により入荷量は平年を下回る見込み。 彼岸需要を中心に動きが出る見込み。
ガ ー ベ ラ	静岡・愛知などからの出荷。 高温による品質の低下や入荷量の減少が懸念される。 業務需要中心の販売となる見込み。

米穀情報

米 穀 情 勢

1. 8年産米の作付け動向について

農林水産省が7月28日に公表した各都道府県の6月末時点の主食用米作付意向は、136.0万ha（対前年0.7万ha減）と見込まれており、4月末時点の作付意向と比較し主食用米の作付けは0.3万haの減少に留まっています。今回から酒造好適米の作付意向が追加され、主食用米のうち1.8万haが酒造好適米であることが明らかになりました。

また、1.70mmふるい目幅の直近5か年中3か年平均の全国単収（538kg/10a）を用いて計算すると、8年産主食用米生産量は732万玄米トンに相当します。

千葉県の作付動向については主食用米（対前年比1.1千ha増）・加工用米、新市場開拓用米（輸出用米等）、米粉用米は増加傾向、飼料用米は減少傾向となっています。

【表1】令和8年産主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況（7/28食糧部会資料より）

《表1—1》全国計

（単位：万 ha）

年 産	主食用米		備蓄米	戦 略 作 物								合計
		酒造好適米		加工用米	新規需要米	新市場開拓用米（輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）	麦	大豆	
R4年産	125.1	—	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	45.1
R5年産	124.2	—	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	44.5
R6年産	125.9	—	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	41.1
R7年産	136.7	—	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	32.1
R8年産（6月末時点）	136.0	1.8	3.9	4.5	8.5	1.0	0.6	3.3	4.3	8.6	7.0	28.4
対前年差	-0.7	—	+3.9	+0.0	-2.3	+0.1	+0.2	-2.0	-0.6	-0.9	-0.5	-3.8
4月末時点との差	-0.3	—	+1.2	+0.1	-0.7	+0.0	+0.2	-0.7	-0.2	-0.2	-0.3	-1.0

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産状況は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産以前の実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：備蓄米の8年産作付状況は、政府買入入札の落札数量（21万トン）を1.70mmふるい目幅の直近5か年中3か年平均の全国単収（538kg/10a）で除して算出。なお、備蓄米の6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

4：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。7年産は取組計画の届出面積。

なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。

5：麦及び大豆の7年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

6：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

《表1—2》千葉県計

（単位：千 ha）

年 産	主食用米		備蓄米	戦 略 作 物						
				加工用 米	新規需要米				麦	大豆
	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用 米			飼料用 米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)				
R 8年産 (6月末時点)	54.2	0.0	0.1	1.5	0.1	0.1	1.0	0.8	0.4	0.2
対前年差	1.1	—	—	0.0	0.0	0.1	▲ 1.1	▲ 0.2	0.0	0.0

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付状況は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。

2：戦略作物の8年産作付状況の数値は、7年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

2. 米穀の需給見通しについて

令和8年7月28日に農林水産省「食料・農業・農村政策審議会 食糧部会」が開催され、米穀需給及び価格安定に関する基本指針について審議し了承されました。

(1) 令和7／8年の需給見通しについて

令和8年6月末における民間在庫は243万玄米トンとされ、令和7年6月末と比較し88万トン増加しています。

また、需要量については683万玄米トンとされ、令和8年3月の公表時から8～21万トン減少しており、民間貿易輸入量の増加に伴う国産米需要の減少や、米不足に対する不安感の薄れや手持ち在庫量の増加により、実需・消費者の購買意欲が落ち着いたことが挙げられています。

(2) 令和8／9年の需給見通しについて

8年産米の生産量については令和8年3月で設定した基本指針では711万玄米トンであるため、令和8／9年の供給量は954万玄米トンとなります。需要量については直近の一人当たりの消費量実績、人口、インバウンド需要や精米歩留まりなどを考慮し、693～711万玄米トンと設定されたため、令和9年6月末の民間在庫量は242～260万玄米トンの見通しとされました。

さらに今回、令和8年6月末時点の作付意向調査を踏まえた見通しも公表されました。全国単収を用いて計算すると、8年産米生産量は732万玄米トンとされており、8／9年の供給量は974万玄米トンとなります。8／9年の需要量は693～711万玄米トンであるため、令和9年6月末の民間在庫量は263～281万玄米トンと見通されます。

【表2】令和7／8年の主食用米等の需給実績及び令和8／9年の主食用米等の需給見通し（7/28食糧部会資料より）

【前回(令和8年3月23日)】

【令和7/8年及び令和8/9年の主食用米等の需給見通し】

		万玄米トン	万精米トン		
令和7／8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155	138	
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	747	663	
	うち生産者ふり目幅以上	C	718		
	うち生産者ふり目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	29		
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21	
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	925	823	
	令和7/8年主食用米等需要量	G	691～704	614～626	
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	221～234	197～208	

作付意向調査(令和8年1月末時点)を踏まえた見通し

令和8／9年	令和8年6月末民間在庫量	H	221～234	197～208	221～234	197～208
	令和8年産主食用米等生産量	I	711	630～635	719～732	637～654
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	932～945	826～844	940～966	834～863
	令和8/9年主食用米等需要量	K	696～711	622～630	696～711	622～630
	令和9年6月末民間在庫量	L=J-K	221～249	196～222	229～271	204～241

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入れは21万玄米トンと予定。これは上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。
 ※2 政府備蓄米の放出（全体で約59万玄米トン）に係る買戻し及び買入れは、今後の需給状況等を見定めた上で行う。

【今回(令和8年7月28日)】

【令和7/8年の主食用米等の需給実績(速報値)及び令和8/9年の主食用米等の需給見通し】

		万玄米トン	万精米トン		
令和7／8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155	138	
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	747	663	
	うち生産者ふり目幅以上	C	718		
	うち生産者ふり目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	29		
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21	
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	925	823	
	令和7/8年主食用米等需要量	G	683	607	
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	243	216	

【参考】
 ・長期計画的な販売支援(32万トン)
 ・民間備蓄実証事業(5万トン)

作付意向調査(令和8年6月末時点)を踏まえた見通し

長期計画販売 実証事業
 ≪37≫ 32 5

令和8／9年	令和8年6月末民間在庫量	H	243	216	243	216
	令和8年産主食用米等生産量 ※1	I	711	630～635	732	648～654
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	954	846～851	974	864～870
	令和8/9年主食用米等需要量	K	693～711	620～630	693～711	620～630
	令和9年6月末民間在庫量 ※3	L=J-K	242～260	215～231	263～281	234～250

長期計画販売 実証事業
 ≪37≫ 32 5

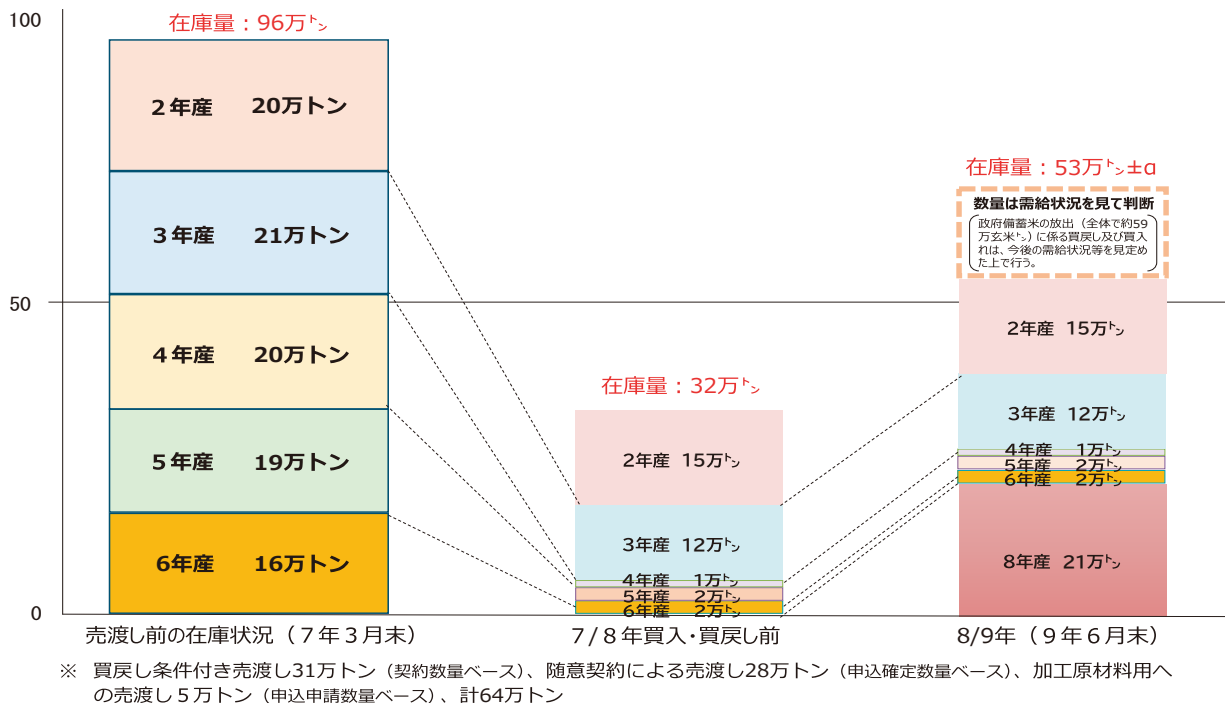
※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入れ契約数量は21万玄米トン。これは、上記の令和8年産主食用米等生産量には含まれていない。
 ※2 政府備蓄米の売渡し（全体で59万トン）に係る買戻し及び買入れは、供給不足が生じる見込みが低い環境下で行うことが必要であることから、令和8年産米の作柄を含め、今後の需給状況等を見定めた上で、時期・数量を判断。その上で、基本指針第3の1(1)②の備蓄期間が経過している備蓄米（令和2年産米）の販売に向けて準備。
 ※3 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、基本指針第4の2のSBS方式や枠外の民間輸入（令和7年度：約11万トン）による輸入米は含まれていない。
 ※4 上記の需給見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に見直す。

3. 政府備蓄米の在庫状況について

令和8年産の政府備蓄米の買入れについては、21万トンを対象として、従来通り一般競争入札により、年明け1月以降、4回実施され落札されました。

また、政府備蓄米の売渡し（全体で59万トン）に係る買戻し及び買入れは、供給不足が生じる見込みが低い環境下で行うことが必要であることから、令和8年産米の作柄を含め、今後の需給状況等を見定めた上で、時期・数量を判断すると公表されました。その上で、備蓄期間が経過した備蓄米（令和2年産米）の販売に向け準備を行うこととされています。

【図1】政府備蓄米の在庫状況



4. 安全・安心な米作りは作業場の管理から

異品種や異物の混入は産地の信頼を失う重大な事故につながります。最近では特に害虫の混入による返品も増えていますので、収穫前の圃場確認や、刈取や乾燥・調製作業を開始する前の機械清掃、および品種を切り替える際に機械に残留しているお米の払い出し確認など、今一度管理・確認を徹底しましょう。

【図2】異物等混入事故の事例

圃場・作業場等の管理を徹底しましょう！

① 異品種混入

（もち玄米へのうるち米）

2つ以上の異品種が混入すると、銘柄（例：千葉県産コシヒカリ）として販売できません。また、価格も大きく下がります。

② 異物混入

（マジック混入） （ガラス片混入）

石やガラス片が混入すると、1等格付けされません。透明なガラス片が混入すると、除去がむずかしく販売できなくなることもあります。

③ 害虫等の混入

（コクゾウムシ成虫） （カエルの死骸）

害虫混入は販売先から受入拒否され、返品となります。

肥料情報

園芸向け一発肥料のススメ！

一発肥料

水稻や園芸で使われる一発肥料は、被覆肥料と化成肥料を組み合わせることで製造されています。

一発肥料は追肥を省略できることにより省力化・減肥によるコスト低減等様々なメリットがあります。

月旬	7	8	9	10	11	12-3	4
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
秋冬どり栽培	○—○				収 穫		
施肥	●						
作業	基肥	播種	追肥				

この手間を省略できます!!

おすすめ園芸用一発肥料



SCねぎ専用047 10-14-7 Mg1
ねぎ専用基肥肥料。圃場に殻が残らない140日タイプの硫黄被覆尿素使用。肥効期間が長いので、追肥の省力化が可能



SCちば野菜専用711N 17-11-11
野菜用基肥肥料。圃場に殻が残らない60日タイプと80日タイプ硫黄被覆尿素使用。硫黄を好むユリ科、アブラナ科作物などに有効。



ニュートマトエース805 8-10-5
トマト用基肥肥料。有機・70日、100日、180日タイプの被覆尿素使用。多種にわたる被覆尿素を使用しているため追肥作業が軽減でき、粒状配合のため散布が容易



エコマスター葱・玉葱専用 14-8-4
ねぎ・たまねぎ専用15kg基肥肥料。ハイパーCDU・90日～140日タイプの被覆尿素使用。豚ふん堆肥・有機原料・亜リン酸・ケイ酸加里が入っており、15kgで持ち運びも容易。



エコレット一発484 14-8-14
野菜用基肥一発肥料。被覆肥料を使用し肥効は約4～5ヶ月間。豚ふん堆肥約27%含有。リン酸過剰な施設野菜やトマト、ねぎ、ニラ、キャベツ、なばな、レンコン等に最適です。



新マトリックス有機278 12-7-8
ウレアホルムと豚ふん堆肥、有機質肥料を独自技術で混合し粒状化した緩効性肥料。被覆肥料を使用しておらず、穏やかな肥効で様々な作物に使用可能です。



紅一発J 17-16-10 Mg3
野菜向け基肥肥料。80日タイプの被覆尿素使用。気温に左右されず収穫期まで肥効が持続。苦土が配合されているため果実の品質向上につながります。



蒼一発J 15-12-12 Mg1
園芸基肥一発肥料。40日・60日タイプの被覆尿素使用。冬の低温期でも安定した肥効を実現。微量元素であるホウ素も含まれています。

詳しい使い方については最寄りのJAにお問い合わせください

農業従事者熱中症患者数（死亡者数）

熱中症に
注意!!

2021年
85人(2人)

2022年
145人(2人)

2023年
231人(4人)

2024年
235人(5人)

2025年
365人(2人)

2021年から2025年の5年間で、農業従事者の熱中症リスクが約4.3倍に上昇。炎天下での作業を少しでも減らすため、ぜひ一発肥料の使用を御検討ください。

資材情報

電気柵管理のポイントについて

イノシシやシカなどの野生鳥獣対策として設置される電気柵は、適切な管理を行うことで高い効果を発揮します。しかし、設置後の管理が不十分だと、電圧低下によって侵入を許してしまう場合があります。被害を防ぐため、また電気柵を長く使うために次のポイントを定期的に確認しましょう。



ポイント① 「設置後のチェックポイント」

電気柵の漏電原因

- ① 柵線が弛んで地面に触れてしまっている
 - ② 周辺の草や木などが柵線に接触している
 - ③ 番線などの金属物が柵線に接触している
 - ④ 周辺のガードレールが柵線に接触している
 - ⑤ ワイヤメッシュの金属部分が柵線に接触している
 - ⑥ 鋼管ポール(※注2)に柵線が接触している(特にコーナー部)
 - ⑦ 柵線同士の繋ぎ部分が不完全で放電している
 - ⑧ 柵線上下の繋ぎ部分が不完全で放電している
 - ⑨ 柵線が古くなり劣化、ステンレス線が様々な場所で断線し放電している
- (※注2) 鋼管ポール…中が鉄パイプでビニールの被膜で覆われたパイプ

以上の漏電原因があると、電圧が低下してしまいます。特に、夏場は草の成長が早いので注意しましょう。

～電気柵を使わない時期～

ポイント② 「動物は学習します。」

動物が通電していない柵線をぬけ、囲場に侵入すると、「ここは安全。柵線は通過できるもの。」と学習してしまいます。その場合、通電後も侵入されることとなります。

使わない時期は、**電気柵を常に通電させておくか、柵線と本体の両方を撤去する**ようにしましょう。

ポイント③ 「ソーラータイプは倉庫にしまったままにしない。」

バッテリーを長持ちさせるためには、**定期的な充電が必要**です。

最低でも3か月に1回は倉庫から出して充電するようにしましょう。

ソーラーパネルとバッテリーが接続された状態の本体のみを、日の当たる場所に一日置くと充電が回復します。(充電のみの場合は、アース棒や柵線を接続する必要はありません。)

ご不明な点はお気軽に最寄りのJAにご連絡ください。

TOPICS

農業機械展示会 南総サマーフェア開催

ＪＡ全農ちばは6月26日(金)、南総センターで「第8回南総サマーフェア」をＪＡいすみ・ＪＡ長生・ＪＡ市原市との共催で開催しました。当日は、トラクターや田植機のほか、ネギの調製機や収穫機などを展示し、生産コスト低減に向けた提案を行いました。また、千葉県農業者総合支援センターからは、安全啓発を目的にしたＶＲ農作業事故体験や近年課題となっている水稻高温対策講習会を開催しました。

来場者は、最新の農業機械を熱心に見学し、メーカー担当者に性能や導入効果について質問するなど、理解を深めていました。

ＪＡ全農ちばは今後もメーカー各社と連携し、農業機械事業を通じて生産現場の課題解決や農作業の省力化を支援していきます。



TOPICS

全農お肉工房印西店周年祭を開催



ＪＡ西印旛とれたて産直館内にある全農のお肉工房印西店は開店５周年を記念し、７月４日(土)から５日(日)にかけて周年祭を開催しました。

当日売り場では、千葉牛・若潮牛・房総ポークの感謝セールのほか、恒例の国産豚の味噌漬けの試食や“よりどりセット”を販売し、昨年より1.5倍のセット数を売り上げ、大変好評でした。また、ＪＡ西印旛とれたて産直館生産者支部の夏祭を同時開催し、生産者が房総ポークを使用した焼きそばなどを屋外販売しました。

ＪＡ全農ちばは、全農のお肉工房を通して、千葉県産畜産物のもつ特徴や魅力、生産者の想いを消費者に直接PRしてまいります。



TOPICS

旭市豚肉共進会にて 房総ポーク生産者が最優秀賞を受賞



７月８日、旭市養豚推進協議会による豚肉共進会が開催され、千葉県農協銘柄豚「房総ポーク」生産者の日下義康さんが最優秀賞を受賞しました。

出品された枝肉は、均整の取れた肉付きやきめ細やかな筋繊維、適度な脂肪の入り方が高く評価され、日頃の丁寧な飼養管理の成果が認められました。

受賞した日下さんは「これを機に、今後も上物率の向上に努め、安全・安心でおいしい豚肉づくりを続けていきたい」と抱負を語りました。

ＪＡ全農ちばは今後も、房総ポークの品質向上と安定生産を支援するとともに、県産豚肉のさらなる評価向上に取り組んでまいります。



TOPICS

令和8年産米の 農産物検査員技能研修会を開催

J A全農ちばが事務局を務める千葉県J A農産物検査連絡協議会は7月14日(火)、J A全農ちば総合センターでJ Aグループ千葉の農産物検査員を対象とした「技能研修会」を開催しました。研修会は県内3地区で実施し、令和8年産米の農産物検査を担当する県内J Aおよび全農職員261人が参加しました。

研修では、玄米試料を用いた鑑定による技能実習を行いました。参加者は等級や銘柄の判定に取り組み、結果をもとに活発な意見交換を行いながら検査技術の向上をはかりました。また、J A全農ちばは、近年の高温による品質への影響や、実需者・卸売業者による品質評価の厳格化について説明し、適正な品質評価の重要性を呼びかけました。

J A全農ちばは今後も農産物検査員の知識・技能向上を支援し、適正な農産物検査を通じて県産米の信頼確保に努めていきます。



TOPICS

ライフ(スーパーマーケット)6店舗でやまといもPRを実施



ライフ 千川駅前店

J A全農ちばは株式会社ライフコーポレーションと連携し、7月25日(土)にライフ6店舗にてやまといものPR活動を実施しました。

当日は、千葉県産やまといもを使用したメニューの試食宣伝を行い、多くのお客様にやまといもの特長やおいしさ、調理方法をPRしました。試食コーナーには多くのお客様が立ち寄り、千葉県産やまといもへの関心の高さがうかがえました。

J A全農ちばは今後も、関係機関と連携しながら、千葉県産青果物の消費拡大に向けた販売促進活動をすすめてまいります。

第51回 JAグループ千葉農業機械大展示会

千葉アグリフェア2026

応援します！

入場
無料

千葉県農業！

日時 10.23金・24土

両日 9:00~15:00 開催

場所 酒々井プレミアム・アウトレット
P9駐車場

農業機械展示コーナー



第3弾
共同購入コンバイン
YH448



関東6県
スペシャル
トラクター

低価格モデル農機



関東6県
スペシャル
コンバイン



関東6県
スペシャル
田植機

会場ご案内図



イベント詳細は
全農ちばHPにて
ご確認ください



TOPICS

甲子園出場の拓殖大学紅陵高校に
県産農畜産物でエール！

J A 全農ちばと J A 木更津市は7月29日(水)、県内生産者・J A を代表し「第108回全国高校野球選手権大会」に出場を決めた拓殖大学紅陵高校へ、新鮮な県産農畜産物を贈呈。千葉県農業の力で選手たちを後押ししようと、県内生産者からのエールを届け、甲子園での健闘を祈念しました。

松元善一運営委員会会長は「千葉大会決勝戦では大きな感動と勇気をもらいました。皆様の奮闘は千葉県の誇りです。「深紅の大優勝旗」を我が千葉県にもたらししてくれますよう千葉県民628万人が期待をしています。」と激励の言葉を贈りました。

贈呈を受けた同校の板岡大史教頭先生は「地元の声援を力に変えて千葉の名声を広げていけるようこれからも頑張りたい。」と甲子園に向けた抱負を述べられました。

同校は、24年ぶり6回目となる夏の甲子園出場となりました。

J A 全農ちばは、今後もスポーツなどを通じて、地域や未来を担う若い世代を応援してまいります。

同校に贈った 農畜産物

J A 木更津市

- ・木更津市産の精米 60kg
- ・J A 木更津市オリジナルの「ブルーベリーゼリー」 280個
- ・スポーツドリンク 480本

J A 全農ちば

- ・千葉県産梨の「幸水」 50kg
- ・県の銘柄豚「房総ポーク」のウインナー 300本
- ・J A 全農ちばオリジナルの「フルーツ&キャロット」ジュース 300缶

お知らせ

稼げる農業を実現！
「ちばアグリトプランナー経営塾」を開講

千葉県農業者総合支援センターでは、優れた経営感覚を備えた農業経営者を育成するため、経営者として必要な雇用管理や財務、マーケティング等を体系的に学ぶ「ちばアグリトプランナー経営塾」（主催：千葉県農業者総合支援センター、共催：全国農業協同組合連合会千葉県本部、千葉県）を開講しています。



R8ベーシック開講式

講師 佐川 友彦氏



ファームサイド(株) 代表取締役

東京大学農学部、同修士卒。外資系企業を経て阿部梨園に参画し、大小500件の業務改善を実施し、小規模ながらスマート経営を実現。現在はファームサイド(株)を起業し、講演活動や経営支援で各地を周り、農家の経営改善運動を全国へ展開中。

コーディネーター

豊増 洋右氏
(株)ONE
DROP FARM北川 貴基氏
有北川鶏園切替 宣充氏
切替牧場(株)小高 一哲氏
(株)小高ファーム

今年度は、経営の基礎を学びたい方向けの「ベーシック」（7月開始、全5回）、経営プランのブラッシュアップ、経営管理能力のスキルアップを図りたい方向けの「アドバンス」（10月開始、全5回）の2つのコースに分けて開催。「ベーシック」は7月16日(水)に開講式を行いました。

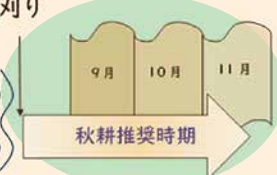
また、経営について共に考え、共に学び合うコミュニティ「ネクスト」（10月開始、全4回）も開催します。詳細は二次元コードからご確認ください。



詳しい情報は二次元コードから専用ページをご確認ください

水稲 高温対策は秋耕から 稲刈り後の稲わらすき込み

稲刈り



●良質な米は秋の土づくりから！

高品質の美味しいお米の生産は秋耕と土づくりから始まります。

秋耕をしっかりと実施し、春先に健全な根を張らせることで、土の養分供給力、**夏季高温**や急激な環境変化に対する水稲の抵抗力を高め、高品質で良食味な米の安定生産につながります。

●稲わらのすき込み(秋耕)

稲わらにはケイ酸をなどの生育に必要な多くの養分を含んでいます。稲わらをすき込むことで土壌養分と有機物の供給を同時に行うことができます。

しかし、すき込み時期が遅くなると、稲わらの分解が不足し、翌年の稲作に次のような影響を及ぼします。

- ▶田植後、酸素不足(還元状態)により、根腐れをおこす。
 - ▶微生物が土壌中の窒素を先取りし、初期生育が悪くなる。
- ⇒根イタミを起こしているため特に出穂期前からの養分・水分を吸えず、品質・収量の低下が心配されます。

●秋耕・稲わらすき込みの極意

田植え前までに分解が進むよう、刈取り後、秋の早い時期(地温15℃以上確保できる11月中旬頃まで)かつ、田面が乾いた状態で、5～10cmの浅耕とし、必要に応じて腐熟促進剤を施用し、すき込みましょう。また、翌年の温室効果ガス(メタンガス)の発生抑制にも秋耕が有効です。

●秋耕は良いコトばかり！！

秋耕・稲わらすき込みを適期に行うことで、「ジャンボタニシの越冬減少」、「害虫(斑点米カメムシ類)等の越冬減少」「雑草の減少」等にも効果◎

より詳しい情報は、
JA全農ちばHPの
営農情報集をチェック!!
<https://www.zennoh.or.jp/cb/producer/einou/>



営農情報

お知らせ

JA全農ちばは、「アグリ情報“ちば”」が生産者の皆さまとの情報交換の場となるよう努めて参ります。

身近な話題、ご意見、ご要望などございましたら、下記連絡先までお寄せください。

アグリ情報“ちば”に係る 個人情報の取り扱いについて



組合員の皆さまからご提供いただきました個人情報、は、「アグリ情報“ちば”」送付の目的にのみ使用いたします。

発行／全国農業協同組合連合会千葉県本部 令和8年8月15日発行(毎月1回15日発行) 通巻第194号
編集・発行部署／管理部 総合企画課
〒260-0031 千葉市中央区新千葉3-2-6 電話043-245-7360 FAX043-247-9715

「アグリ情報ちば」の宛名・送付先の変更や送付の停止をご希望の方は、JA全農ちばホームページの
お問い合わせページにご住所・お名前を明記のうえご連絡ください。
新規お申込みをご希望の場合は、お電話にて承ります。

JA全農が提供するラジオ番組

Tokyofm
Life time audio 80.0ZEN-NOH
COUNTDOWN JAPAN13:00～13:55 毎週⁺ 生放送
全国の農畜産物をプレゼントします。15:50～16:00 毎週⁺

生産者の声や開発の道のりなど商品の魅力を紹介します。

SCHOOL OF LOCK!
THURSDAY 23:00

農業部

Supported by 全農

23:00～23:06 毎週⁺

農業について一緒に楽しく学びましょう。

送付先の
変更・停止JA全農ちば
公式HPJA全農ちば
公式Instagram